第 123 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXXIII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2018 年 12 月 9 日（日） 10:30 - 12:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1408 教室

担当者：川口正通

「講読：Nueva gramática básica de la lengua española 第 3 章『統語論』 3a 単文構造 第 24 節
『モダリティ、否定』 pp.228-236」

* Fecha y hora: domingo, 9 de diciembre de 2018, de 10:30 a 12:30

* Lugar: Universidad Kwansai Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1408

* Encargado: Masamichi KAWAGUCHI

* Lectura de la Nueva gramática básica de la lengua española: Apartado 24 “La modalidad. La negación”

La modalidad. La negación モダリティ 否定

RAE *et al.* (2011) *Nueva gramática BÁSICA de la lengua española*, Madrid: Espasa Libros, cap.24, pp.228-236.

モダリティ

-enunciación (発話行為)：メッセージを発するという言語的行為

-enunciado (発話)：その言語的行為が実現される際の言語構造

発話はものごとの命題内容（SECUENCIA o *DICTUM*）だけでなく、内容に対する話者の態度（MODALIDAD o *MODUS*）もあらわす。

モダリティは言語的手段を用いて話者の態度を表現する。

モダリティのタイプ

Juan viene / ¿Viene Juan? / ¡Juan viene! / Ven, Juan / Ojalá venga Juan

いずれも Juan に関して venir という行為が叙述されているが、異なる発話（話者の異なる態度をあらわす）

-モダリティの表現に使用される言語的手段

- a) 音韻的（イントネーションなど） ¡Juan viene! / Juan viene.
- b) 統語的（語順など） Juan viene / ¿Viene Juan?
- c) 形態的（動詞の屈折 [活用] など） Ven, Juan / Juan viene.

-基本的なモダリティ 5 種

- a) ENUNCIATIVA (平叙) Juan viene.
- b) INTERROGATIVA (疑問) ¿Viene Juan?
- c) EXCLAMATIVA (感嘆) ¡Juan viene!
- d) IMPERATIVA (命令) Ven, Juan.
- e) DESIDERATIVA (願望) Ojalá venga Juan.

-言語的発話と発話行為

ENUNCIADO LINGÜÍSTICO (言語的発話)：命題¹とモダリティによって構成される。同じ発話が異なる発話行為を遂行するために使用されうる。

ACTO VERBAL (発話行為)：言語的発話によって実現される。

(例)

- ¡Buenos días! (あいさつ) ¡Hasta luego! (お別れ)
- ¡Enhorabuena! (祝福) Le ruego que me escuche. (懇願)
- No se ponga nervioso. (助言) ¿Tomas un café? (誘い)
- ¿Cuántos hermanos tienes? (質問) Salga ahora mismo de aquí. (命令)

Verbos REALIZATIVOS (遂行動詞)

特定の文脈で発話行為をおこなう (prometer, rogar, ordenar など)

- (例) Te lo prometo. (約束) Te lo prometí. (断定)

¹ 原文では secuencia となっており、この語を「命題」と訳すのは一般的でないが、意味的に命題を指すものと推測される。

発話行為とモダリティ

モダリティと発話行為は常に対応するわけではない。

(例 1) 疑問のモダリティ

¿Cómo se llama su hija? (質問)

¿Me da usted lumbre? (依頼)

¿Desea usted algo? (申し出)

¿No te da vergüenza? (非難)

¿Soy acaso el guardián de mi hermano? (断定 [修辞疑問])

(例 2) 断定のモダリティ

El hombre es mortal. (言明)

Usted se calla. (命令)

Es usted muy generoso. (賞賛)

断定の発話

断定の発話では、発話者は命題があらわす内容の真偽を保証し、それゆえ発話者が正直か嘘つきか、メッセージが真か偽かの判断が可能である。

断定の発話は肯定文と否定文に分けられるが、それ以外の発話も否定を含むことはありうる。

(例) Ven – No vengas, ¿Es hoy martes? - ¿No es hoy martes?

文の形を持つ断定の発話では、動詞は直説法であり、語順も無標で固定した語順は存在しない。

(例) La fiesta terminó. – Terminó la fiesta.

疑問の発話

概念

疑問の構文は未知の内容を導入することが特徴

発話者は命題があらわす内容の真偽を保証しないので、その発話に対して真偽の判断はできない。

コミュニケーション上、開かれた発話（聞き手の返答を可能にするという意味で）

文の形式をとる場合（¿Llueve?）とそうでない場合（¿Más libros?; ¿Ya?）がある

動詞は一般に直説法。

疑問構文の種類

分類法 2 種

a) 直接疑問・間接疑問

直接疑問文は、その文自体が疑問発話となる。(¿Cuándo ocurrió?)

間接疑問文は名詞従属節の一種 (¿Dígame cuándo ocurrió?)

b) 全体疑問・部分疑問

全体疑問文 (選言の疑問文) : 複数の選択肢の中での不確かさがあらわされる。

sí/no の全体疑問文では、選択肢は 2 つ (例) ¿Ha llegado tu hermano (o no)?

選択的疑問文ではさらに多い (例) ¿Vendrá hoy, mañana o pasado mañana?

部分疑問文 : 未知の内容は疑問詞で表される (例) ¿Dónde están?

上記の疑問文はいずれも間接疑問文にもなりうる

(例) en función de si viene hoy, mañana o pasado mañana; No sé si ha llegado o no; No han averiguado dónde están, etc.

疑問文の統語的特徴 :

(特に部分疑問文で、主語が未知の内容である場合を除き) 主語後置の傾向

(例) ¿Triunfó María? ¿Come Juan arroz? (カリブ海地域のスペイン語では¿Qué tú dijiste?も普通)

断定が隠された質問 : 修辞疑問文 (例) ¿Estamos aquí para perder el tiempo?

直前で言われた内容に関する確認を求める疑問文 : エコー疑問文 (例) ¿Te vas adónde?

※最初の疑問符なしで質問を書くのは正しくないが (Vienes a la fiesta?), 疑問符と感嘆符を組み合わせることは許容される場合がある (¿¡Qué dices!?)。

感嘆の発話

概念

モノ、人、状況の特徴を称賛したり、感情を強調しつつ表現したりするのに使用される表現で、文の形式をとる場合とそうでない場合がある。(例) ¡Qué cosas me dices!; ¡Estupendo!

間投詞は通常、感嘆の発話であらわれる。

感嘆の発話は下降イントネーションで発音されるが、断定の発話と比較するとコントラストが大きい。

正書法上は前後の感嘆符で表現される。

感嘆の発話で実現される発話行為

驚き (例) ¡Qué cosas!

不同意 (例) ¡Menudo disparate!

侮辱 (例) ¡Vago!

さまざまな感情の表現 (例) ¡Tonterías! ¡Qué encanto!

注意を引く (例) ¡La policía!

請願 (例) ¡Un momento, por favor!

命令 (例) ¡Más despacio!

字義通りのものとは逆の内容をあらわすものは修辞感嘆文と呼ばれ、通常は話者の怒りや不愉快さを表現する。(例) ¿Te parecerá bonito? ¿Contento me tienes? ¿Empezamos bien?

感嘆の発話の種類

a) 全体感嘆文

感嘆をあらわす語句(qué, cuando, etc.)が存在しない。(例) ¡Hemos ganado el partido!

b) 部分感嘆文

文頭に感嘆をあらわす代名詞、限定詞、副詞を含む。

(例) ¡Qué estás diciendo! ¡Cuánto esfuerzo! ¡Cómo te has puesto!

部分疑問の場合と同様、主語は後置される（主語が感嘆の対象となる場合を除く）

(例) ¡Qué alto {está el muchacho ~ *el muchacho está}!

¡Qué cosas tan extrañas sucedieron!

命令の発話

概念

対話相手に影響を及ぼし、特定の振る舞いをするよう働きかける発話のこと

命令法が（その他の統語意味的特徴と組み合わせられて？）使用されることが多いのでこのように呼ばれる。

命令の発話では、発話者は発話行為に対して責任を持つが、疑問文の場合と同様、命令文自体は真でも偽でもない。

命令法 形式的特徴

文法的人称	単数	複数
1 人称		vengamos
2 人称	ven (tú) vení (vos)	venid (vosotros)
3 人称	venga (usted)	vengan (ustedes)

命令形特有の形式は **tú, vos, vosotros**, の形式のみ

usted, ustedes は意味的には 2 人称だが文法的には 3 人称

3 人称と 1 人称は接続法現在形と同形

命令法では弱形代名詞は前接的（動詞に後置される）。(例) **Decímelo; Dígamelo.**

***Me lo decí** のような用法は見られない。接続法現在と同形の **Me lo diga, Se sienten** は見られるが、避けるべきである。

※3 人称複数形の場合、弱形代名詞の後に **-n** を置くことは推奨されない。(例) **Siéntensen**

弱形代名詞が後置された場合、命令法形の語尾に変化が生じることがある。

(例) **Sentaos. *Sentados.**

※極めてインフォーマルは発話である場合を除き、命令法の代わりに不定詞を使うことは正しくない。

(例) **Sentaos. *Sentaros.**

-mos で終わる命令法形に **nos** が後続する場合、**-mos** の最後の **s** が消失するが (**Quedémonos.**)、**-n** で終わる形式に **nos** が後続する場合、最後の **n** は維持される。これにより、**Dígannoslo. (ustedes)** と **Díganoslo. (usted)** を区別することができる。

※*quedémosnos* や *vámosnos* のような表現がスペインおよびアメリカ大陸のあまり注意が払われていない言語で見られるが、正しくない。

※弱形代名詞 *se* が *-mos* で終わる形式に後続する場合、発音上は *s* が 2 つ重なる可能性があるものの、正しい表記は *dígame* であり、**digámosselo* は避けるべきである。

統語意味的特徴

命令文には、命令または依頼の受け手に当たる（明示的または暗黙の）主語が存在する。

(例) ¡Sal (tú)! ¡Salí (vos)!

主語と呼びかけ語を区別することが重要である。呼びかけ語は（コンマで）区切られる。

(例) Sal tú. Juan, sal. Juan, sal tú.

命令法は否定形では使用されず、否定命令の発話では接続法形が使用される。

この場合、代名詞は後置されない。(例) No me lo diga. / *No dígame.

※命令法否定形の代わりに不定詞を使用すること（No *vengáis* の代わりに No *venir*）は推奨されない。ただし、間投詞的な決まり文句（¡Ni hablar!）や一般向けの注意書き（No fumar, No pisar la césped）はその限りではない。

命令法は命令、依頼、助言、請願、勧告、警告をあらわす。つまり、聞き手の行動に影響を与えようとし、それゆえ言語が持つ呼びかけ、能動的機能と関係する発話行為をおこなうことになる。

その他、命令の意味を持つ発話

命令のモダリティを持たない発話が命令をおこなうことも可能である。

Usted se calla. (命令の現在)

Saldremos inmediatamente el edificio. (未来)

Se ordena silencio. / Se ruega discreción. (再帰受身 [一部の動詞のみ])

¡A callar! / ¡Sin rechistar! (a / sin + 不定詞)

¡Fuera de mi casa! / ¡Todos a la calle!

願望の発話

言語の表現的機能と関係する。

話者は自身のメッセージ内容の実現を望んでいることを明示する。

感嘆の発話と同じイントネーションを持ち、表記上も感嘆文と同様、感嘆符ではさまれる。

接続法形の動詞が用いられ、**que** や **ojalá** などの語に導かれることが多い。

(例) ¡Quién pudiera! ¡Ojalá ganen! ¡Que todo les salga bien! ¡Así sea! ¡Si yo fuera rico!

文の形をとらない願望の発話も一般的で、間投詞句と類似するものもある。

(例) ¡Felicidades! ¡Buenas noches! ¡Feliz Navidad!

否定

概念

否定文では、事態が偽であること、またはその不在があらわされる。

(例) Carlos no tiene dinero. Nadie pudo responder.

統語的には限定詞および代名詞 (**nadie, ninguno, nada**)、副詞 (**no, nunca, jamás, tampoco, nada**)、接続詞 (**sino, tampoco**)、前置詞 (**sin**)であらわされる。

否定の不定語 (**indefinidos negativos**) は、動詞の前に否定語が現れない限り、動詞の後に置くことはできない。(例) *Dijo nada. No dijo nada.

No vino nadie と Nadie vino のような選択肢は否定交替 (**alternancia negativa**) と呼ばれる。

統語的否定と形態的否定

-統語的否定

否定の副詞 **no** は、それが否定する要素ごとに様々な解釈を生む。

否定の影響が及ぶ統語的要素は **ámbito** (作用域、スコープ) と呼ばれる。

外的否定 (命題否定)

全文が否定の作用域となる。

Isabel no le dio el libro a Julio. ‘No es cierto que Isabel le diese el libro a Julio’

内的否定

外的否定よりも作用域が狭く、焦点化された要素が別の要素との対比で否定される。

次の用例の下線部が焦点化要素。

Isabel no le dio el libro a Julio, sino a Luis.

Isabel no le dio un libro a Julio, sino que se lo prestó.

-形態的否定

否定の意味を持つ形態素²がある。(例) apolítico inútil desleal

形態的否定は、当該の形態素が付加された語の範囲を超えて統語的な影響を与えない。

(例) No es posible nada. *Es imposible nada.

否定極性項目と否定誘因要素

-否定極性項目 (términos de polaridad negativa) :

否定の不定語以外にも、動詞の後に置かれた際に、動詞の前に否定を要求する要素 : tampoco, sino, ni, mover un dedo, ser gran cosa など

(例)

{No vino ~ *Vino} Nicolás ni María.

Él {no movió ~ *movió} un dedo por ella.

-否定誘引要素 (inductores de la negación, inductores negativos)

否定表現の出現を誘引する要素

否定極性項目とは異なり、必ずしも否定語とは限らない。

(例)

¿Quién movió un dedo por ti todos los días? (修辞疑問)

Corre más que nadie. (比較)

Era absolutamente contrario a realizar ningún cambio. (否定的意味を持つ形容詞)

教育への応用可能性 (担当者の私見)

- 教育の観点からは、文法だけでなく発話機能に意識を向けるという点において、本章の記述は有意義であると思われる。文法の知識が外国語習得において重要であることは疑いないが、文法の知識に基づいて組み立てた文を用いてどのような発話行為をおこなうことができるのか、つまり何ができるのかという点に注目させることも必要であろう。この点は『スペイン語学習のめやす』にも言及がある。
- 接続法の説明において、助言、命令などのモダリティ的要素や否定が関連するものがあるため、特に中級以上の学生には、必要に応じて本章の内容を噛み砕いて説明することは有益であろうと思われる。

² 原文では elementos morfológicos となっているが、「形態素」という理解で差し支えないと思われる。